

私立大学研究ブランディング事業 2019年度の進捗状況

学校法人番号	281026	学校法人名	学校法人関西看護医療大学		
大学名	関西看護医療大学				
事業名	セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	360人
参画組織	看護学部、看護学研究科、看護診断研究センター				
事業概要	<p>本事業の目的は、行政・市民・支援団体と一体となり、日本遺産淡路島の資源(ヒト・文化・自然)を活用した「セラピーアイランド淡路島」構築の研究・活動拠点を本学に創設することである。その事業活動を基盤として、人的・文化交流を推進することで地域住民の健康増進を図り、地域経済の活性化に寄与する。また、本事業の研究活動成果をもとにセラピーと看護を融合した看護実践能力向上につながるカリキュラムを開発する。</p>				
①事業目的	<p>本事業は、身体・心理・精神の改善をもたらす、人・自然・文化を介在した治療や療法を「セラピー」と定義し、以下を目的として展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本学を研究拠点とし、日本遺産淡路島の「セラピー」資源の発掘とその効果および実施方法を健康科学の側面から研究開発する。 2) 本学において「セラピー」の提供を含めた妊娠・出産・育児・認知症予防・緩和ケア等のセラピー活用支援モデルの開発及び島内の公共未使用施設を拠点としたモデルの実施とその効果の検証を行う。 3) 淡路島ブランドのセラピー資源の商品開発とその効果の検証を行う。 4) セラピーと看護を融合したより独創的な看護教育カリキュラムを開発し、その成果を全国の看護教育機関等に発信する。 				
②2019年度の実施目標及び実施計画	<p><実施目標> 開発商品や発掘した淡路島に根付くセラピー、これまで取り組んできたセラピーサークルの効果検証を行い、看護教育としてカリキュラムに位置付ける。事業成果を広く全国に発信し評価を行うとともに、今後の方向性を明確にする。</p> <p><実施計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 開発された試作品の効果の検証 2) セラピーと看護を融合した看護教育カリキュラムの構築 3) サークル活動のセラピー効果の検証 4) 研究成果の全国の看護教育機関等への発信 5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 				
③2019年度の事業成果	<p>1) 開発された試作品の効果の検証 開発した商品を適宜を新聞に取り上げてもらい、淡路島の特産物や美しいスポットにセラピー効果があることを情報発信することが出来た。大学のオープンキャンパス参加者には、参加記念品として洋菓子をプレゼントした。淡路ハーブサミットにおいて、開発商品の広報と販売を行い、意見・感想を収集した。本学の「学祭」においても、洋菓子の販売、カレーの試食販売を行った。開発した商品は、健康志向の人々に反響が大きく、高い評価を得ることが出来た。淡路ハーブサミットや本学「学祭」での売り上げも好調で、その後も問い合わせを多く寄せられた。ナースカレーは災害備蓄用の食品としても活用するように、阪神淡路大震災を経験している淡路島であるからその発信も行うことができた。淡路島ならではの美しい場所に季節ごとに訪れ、学生たちをモデルに写真撮影を行い、研究データも盛り込んだ「Therapy Book癒しの写真集」を作成した。「写真集」を観ただけで交感神経の緊張が緩むという、画期的な結果を得ることが出来た。洋菓子・発酵茶・ナースカレーをセットにしたものを、ふるさと納税の返礼品として提供した。</p> <p>2) セラピーと看護を融合した看護教育カリキュラムの構築 2018年度の研究によって明らかになった俳句による癒しの効果を、2019年度淡路ハーブサミットにおいて、広く情報発信した。さらに淡路島の癒しのスポットの写真撮影を津名フォトクラブの協力を得て実施し、さらにその映像に対して「俳句」を詠み、冊子にまとめて、ハーブサミット参加者に配布した。「看護観」を俳句により表現するための学習内容を、基礎科目「俳句とセラピー」として立ち上げた。また、高齢者に対するタッチングの効果を呼吸数・脈拍数・血圧により評価し、リラクゼーション効果があることを明らかにした。さらに産後ヨガ実施前後の大学生の気分および唾液アミラーゼの変化を測定し、対象者が産後ではなくても「産後ヨガ」にリラクゼーション効果があることを明らかにした。これらの結果を踏まえ、2020年度より開始される看護学教育の新カリキュラムに「俳句」「タッチング」「産後ヨガ」を組み込んだ。</p>				

<p>③2018年度の事業成果</p>	<p>3) サークル活動のセラピー効果の検証 2019年度、笑いセラピーサークルへの参加者はなかった。他のセラピーサークル活動については、各サークル共、上級生が新入生を支援する形が定着しており、学生たちの力でスムーズかつ安全に展開できるようになっていた。つりセラピーサークルは経年的に質的データを蓄積。学生たちが「釣り」とともに学年を超えた交流を通し「癒し」を得ていることを明らかにした。しんりんセラピーサークルでは、仲間を増やし、活動を通してお互いを知り、交流を深めた。自然と親しむ機会を設け効果を測定したところ、自然の中ではリラックスしていること明らかになった。ダイビングセラピーサークルでは、ダイビングの実技前後で二次元気分尺度による気分の測定を行い、ダイビング中は快適で明るい気分状態になることを明らかにした。</p> <p>4) 研究成果の全国の看護教育機関等への発信 「全国ハーブサミット」パネルディスカッションにおいて、「淡路島なるとオレンジの気分にもたらす効果」を発表した。さらに、日本看護研究学会において、「セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発一産官学連携により研究成果をつくり、つかい、ひろげるために—」とのテーマの下、本学の研究ブランディング事業取り組みを発表した。本学の取り組みは参加者の関心が大きく、また高い評価を得ることが出来た。淡路島早期認知症研究会においても「認知機能が低下した人へのタッチングによるリラクゼーション効果」とのテーマで本学の取り組みを発表した。研究ブランディング事業全体をまとめて「成果報告会」を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、中止せざるを得なかった。研究成果だけでなく、地域密着型のシステムティックな大学事業として、看護教育機関へ報告し意見や助言を得る機会が無くなったことは残念であった。、関係機関・関係者に「最終報告書」および「Therapy Book癒しの写真集」を配布し、プレスリリースした。</p> <p>5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 年度ごとの報告書および昨年度にまとめた中間報告書を基に、関係チームごとに活動内容を整理・評価し、報告書を作成した。それらを集約し、ブランディング委員会がブランディング事業全体としての評価を行い、「最終報告書(案)」としてまとめた。「成果報告会」が中止になったことから、新聞記事より松本正義氏、関西経済連合会会長、高見隆氏、兵庫県淡路県民局長、守本憲弘氏、淡路島市長会会長、門 康彦氏、淡路市長、江川隆子、本学学長のコメントをピックアップして、「最終報告書」とした。最終報告書および「Therapy Book癒しの写真集」を外部評価者および関係機関・関係者に配布し、評価を依頼した。</p>
<p>③2018年度の事業成果</p>	<p>「最終報告書」作成時には日常的に連携している地域住民や関係者からの評価を聞き取るように努めたため、本学の活動に地域住民や行政が関心をもってくれていることが分かった。「成果報告会」が中止になり新聞紙上の発表のみとなってしまったため、行政や地域住民と共に本学の取り組みと今後の方向性について、ディスカッションすることはできなかった。しかし、松本正義氏・高見隆氏・守本憲弘氏・門 康彦氏・江川本学学長の新聞紙上へのコメントをまとめ、キーパーソンからの評価は得ることができた。</p>
<p>④2019年度の自己点</p>	<p><自己点検・評価> ※()内は評点(5～1)を示す。</p> <div data-bbox="1082 1234 1474 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>* 達成度評価の基準 5: 年度計画を上回って実施している 4: 年度計画を十分実施している 3: 年度計画を概ね実施している 2: 年度計画を十分には実施していない</p> </div> <p>1) 開発された試作品の効果の検証 自己評価 4 開発した商品の癒しの効果・健康増進効果を広く発信することができた。各催し物に参加し、商品の広報に勤めることが出来、効果的であった。ただ、販売ルートが定まっておらず、今後の課題である。特に高評価だった「Therapy Book癒しの写真集」は、各書店などでの配布等も検討する必要がある。</p> <p>2) セラピーと看護を融合した看護教育カリキュラムの構築 自己評価 4 淡路島の「癒しのスポット」について、また「俳句」について、淡路ハーブサミットの参加者に広く情報提供することができた。さらに、研究成果を踏まえ、看護とセラピーを融合させるという本学独自のカリキュラムを構築し、実際に教育を開始する準備が整ったことは、本事業の大きな成果であるとする。今後はこれらのセラピー技術を地域住民に広く提供するために、隣地実習の展開方法について検討や工夫を重ねる必要がある。</p> <p>3) サークル活動のセラピー効果の検証 自己評価 4 セラピーサークルが本学のサークルとして根付き、学生たちの力で運営が可能になったことは、大きな成果である。顧問の指導があり、必要な知識を修得した上でのサークル活動であることから、安全性も確保され、参加学生たちは「仲間」を得、大学生活や学習に関する情報を得ながら、「癒し」を体験できていた。このことよりサークル立ち上げの目的も十分達成されたと考える。効果検証のためのデータ収集も順調に進んでいる。</p> <p>4) 研究成果の全国の看護教育機関等への発信 自己評価 4 研究成果の全国の看護教育機関等への発信は、機会を掴み実施することが出来た。しかし前述の通り、「成果報告会」が中止になったことで、研究ブランディング事業全体をまとめて報告する機会が得られなかった。今後は、各看護系学会等でブースなどに出展し本事業の全体像を示し、看護教育関係者より広く意見・助言を得る機会を作ることを検討する必要がある。</p>

<p>検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 自己評価 4 本事業を関係チームごとに丁寧に戻り評価して、報告書としてまとめることが出来た。しかし、本事業全体をステイクホルダーと共に振り返り評価し、今後へとつなげることが十分出来なかった。本事業は2020年3月で終了するが、本学事業として今後も継続すべきものである。新型コロナウイルスの感染が落ち着いたならば、本事業をステイクホルダーと共に評価する機会を作りたい。</p> <p><外部評価></p> <p>1) 開発された試作品の効果の検証 外部評価 4 島特産の資源を活用して、数種類の食品開発を行った。成分分析により効能を明らかにすると共に、商品化を目指してデザインパッケージを行い、地域のイベント会場で販売し好評を得た。地域特産物を取り入れた試作品の完成度は高く評価されたと思われる。効果の検証にはもう少し時間がかかるのではないかと。販売ルートが開発されることで商品価値が高まるとと思われる。</p> <p>2) セラピーと看護を融合した看護教育カリキュラムの構築 外部評価 5 セラピー効果を探求するためのカリキュラムの見直しとして、俳句づくりを取り入れたことは非常に独創的である。地域課題に看護とセラピーを取り入れたカリキュラムとして評価できる。学生の看護観の醸成に繋がり、自分の言葉で表現する機会を作り、自己開発と共に自己のセラピーに繋がっていった効果は高い。</p> <p>3) サークル活動のセラピー効果の検証 外部評価 5 サークル活動と連携することで、学生と教職員が一体となって積極的に癒しの視点からの学びができた。「癒しの場紹介マップ」の整理などを通して、身近な癒しの環境に気づくという取り組みは、島の再発見につながった。特徴的なサークル活動を実施しており継続している点は評価できる。</p> <p>4) 研究成果の全国の看護教育機関等への発信 外部評価 5 癒しとしてのタッチングケアや産後ヨガを看護技術として再構築し、地域住民に参加してもらいながら検証したことは評価できる。今後さらに学会発表などの機会を使って紹介することで、他大学のカリキュラム見直しなどに広く役立つ可能性がある。</p> <p>5) 事業の内部評価および外部評価の実施、今後の方向性の確認 外部評価 5 地域在住の専門家を招いての講演会や大学企画のイベントを開催することで、事業での取り組みや成果を、内外の評価を得つつ進めてきている。内部の評価検証は十分なされており、外部には広く発信することで評価、報告の機会が設けられている、その中で方向性が確認できたものと解している。報告書と共にTherapy Bookを使って、島の特性を活かした癒しの取り組みが継続されていくと期待できる。</p>
<p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p>	<p>人件費 8,993千円 印刷製本費 8,017千円 報酬委託手数料 5,374千円 広報費 3,375千円 消耗品費 1,807千円 教育研究用機器備品 1,481千円 その他 2,431千円 合計 31,480千円</p>